京城新聞

●謹呈仕候

勿禁生

▲丸山總監には愈々島根縣知事に轉任せらるゝ由確定いたし候、同氏も從來官界の閲歴に富み、殊に氏が氣風は警察官としては恰當のやうに思はれ候へば、余輩は寧ろ氏が現在の地位に長く止らんことを希望して已まざるものに候、思ふに今回の轉任についても其の裏面にはいろ〳〵と原因の伏在することに候はんも察する所〇〇〇相との間に於ける感情の不和より來りしものには●あらざるやと被存候、ある新聞の如きは榮轉とか報し居り候ひしも氏の心中にありては決して榮轉の積りには無之やと察被候

▲近來韓國に於て金儲けの方法更に無之此のやうな有樣ならば内地に歸るが得策なりとかの嘆聲を漏らすもの往々有之やに見受けられ候が余輩を以て之を見れば實際此等の人物の氣か知れず候單に無資本にて金の儲かる國は天下何れの所にも無之、單り韓國のみには非ず候、のみならず韓國程東洋に於て富源の豐富なる國は無之候、抽象的に申す譯には無之候も彼の雲母の如きは日本支那は申すに及ばず、世界各國に亘りて餘り多く産出する[illegible]無之候にも拘らず、韓國に於ては十[illegible]に有望にて現に之が礦山を所持し居[illegible]る人の談に、韓國の雲母は其の性質良好にて又其の産出高も多大に到底シベリヤ印度等にて産出するものゝ比にはあらずとのことに候、否な唯に雲母のみならず生牛、陶器、明太、養蠶、麥稈果實等數へ來ればイクラも有之候而り此等の有望なる事業あるにも拘らず、唯單に漠然として金が儲からない國だなどの如き言を發するはソモ〳〵の料簡違ひに候

▲一昨日は現皇帝陛下の即位一周年に相當いたし候、當日大漢門附近は却々の賑ひにて兵士は終日喇叭を吹奏して皇居の周圍を練り歩き、生徒は手に〳〵國旗を携へて唱歌を謠ひ又市民は遙かに皇居を拜して祝意を表すると共に各々祝ひの歌を唄ひ居り候ひしが太平の祥恰かも八紘に溢るゝ許りなりしは實に以て目出度目にて候ひき、總体此の韓人は古より禮式を重んじ其の所謂東洋流の野人禮に嫺はずとかの豪傑風の粗野なる質は無之候、否な唯に禮式に於てのみならず、總て技術上に於ける注意は實に熱心なるものに候、以上の如く兵士が喇叭を吹き生徒が唱歌を謠ふ等の如きなか〳〵に巧みなるものにて殆ど日本人などの及ばざるもの有之候、而も其の心の奥底にては表に現はれたる音聲情及び表情程に切なるものは無之候も一見人をして爾かく感ぜしむるものあるは確かに俳優的人種かと存候

●安東地方情況(續)

△暴徒に關する情況　管内に於て暴徒の出沒するものなし昨年九月前後各道に横暴を極めたる時と雖も一回の來襲を受たる事なく從て其首領たり或は部下たるものを聞かず要するに目下殆んど平穏にして記すべき事項なし

△交通及里程　交通は四通五達にして北は倘州及び咸昌に通じ南は善山、今泉、長川等を通じて大邱に亘り東は比安、安東、醴泉龍宮等に通ず道路概ね洛東江の流域を沿ふが故に大抵平坦なり附近江水を渡るが爲めに渡船場大小四ヶ所あり郵便線は一日倘州より善山を經て大邱に至るものと秦山より倘州に至るものと二便あり一は午前にして一は午後なり加之電話を以て電報事務を取扱ふ各地への里程左の如し

倘州へ四里、秦山へ三里半、玉山へ四里
比安へ三里、龍宮及咸昌へ七里、安東へ十里、醴泉へ八里、義安へ十三里

△農作物の景況　農作物は地味良好にして水利の便に富み頗る豐作の情あり土民は過日來祭典踊をなし之を祝賀したり

△流行病の有無　管内流行病あるを聞かず然れ共目下發生の時機なるを以て警戒しつゝありと

△市場及物價　市場は洛東渡船場の道路に沿ふて西方に位置し僅に三十間周圍に過ぎず毎月五十の日を以て定日とす商人の來集するもの善山倘州等附近の者に限れり需用地の狹隘なる爲め市場も從つて寂寥たり仍て炭松板等山林に産するものは實に悉無にして遠く倘州より輸入せざるべからず薪の如きも從て僅少にして頗る高價なり

米一升十錢　麥一升五錢　薪十貫六十錢

秋期に至れば洛東江にて鯉、鮎、香魚、鰻、スッポンの類を捕獲し遠く大邱地方に輸出すと云ふ

△歷史上に於ける洛東の盛衰　洛東は往昔より船舶の寄繫地にして開慶、安東、龍宮、諸郡の米穀及生産物を此地より移船し線浦に至りて各地へ分配せるものにて頗る繁榮を極めたり現に五十年前迄は戸數五百の上に登りたりと當時附近の田甫は悉く其敷地なりと云ふ然るに星變り物移り或は洪水の爲め或は施政の爲め漸く衰退に歸し終に見る影もなき狀態に至りき今や船便は當地より二里上流なる兎津、新村、道南等に寄航し更に遠きは安東に至るものあり是れ當地の富豪なるものか年々減少するの現象にして洛東の爲め實に歎すべき次第なり

△洛東の將來　京釜鐵道貫通以來倭舘と當地とは密接の關係を有し適法に船便を應用せば五十年前の繁榮を回復すること亦難からざる可し當地の形勢たる洛東江の樞地にあるを以て當地以北の諸物產を集中し大市場を開設し船便を以て倭舘に陸上し京東便に依て各所に散出せば恐らくは慶北有數の商業地たるに庶幾からんか

●マ大佐の材木對抗計畫

露國マドリドフ大佐は嘗て露國か龍巖浦に設立せる森林會社を統括し淸國人張古元を指揮し鴨綠江材木につき經營せる事あり今回通化方面に張古元を伴ひ來りたるは同湖合辦の材木會社に對抗する計畫を立つる爲め視察に來りたるなり

五月闇

(三)　川合柳葉

雅教は山川宗匠が得意相に示す句であるから、定めて金玉の名吟であらうと、俳句に熱心なだけ喜び勇むで見らるゝと、豈斗らんや、

時は今天が下しる皐月かな

と、彼の弑逆の罪人を以て、三日天下を取つて唄はれた日向守光秀が、己が心中を表現して當時の宗匠紹巴に示した句が、其まゝ記してあるから、扨は山川が酒興の上の戯言と合點して、哈々と笑ひながら、

「これは宗匠に旨く一杯食はされた、豈夫と思つたのは私が不覺だつた、ハヽヽヽ、しかし光秀は確かに英傑の良將軍であつたに違ひないさ、此句を思ひ出す毎に聯想するよ、實に旨く詠むでゐるぢやないかね。」

と云ふと、山川は莞爾を待受けて居たと云はぬばかりに、

「では、貴方も此句は好だと見ゆまするな、然うでございませう、然うなくてはならない理でございます、私も大方御意に適ふであらうと存じまして、態と此句を御覽に入れたので御座ります。」

と、意味ありげに云へは、雅教は怪訝な眼色で、

「それは又奈何云ふ理で、態と此句を私に意せたのだ。」



「奈何云ふ理と云ふ事もございませんが、憚りながら若樣の理想の句かと存じまして。」

「なに、これを私の理想の句だと申すか。」

「はい、左樣に愚考致しまして。」

「奈何して私の理想の句と申すか。」

と問はれて山川は、嘸みかけたビールを呷と空け、

「恐す申すと酩酊して申上げるやうに當りまするが、日向守の句を貴方の理想の句と申し上げたに就ては、深い理由があるのでございます、と申すは外でもございませんが、これまで一年有餘の間に詠みになつた句を拜見致しまするに、何か御心中に非常な鬱勃たる在なさる御樣子が、絶ず句の上に現はれて居ります、恐く申しますれば易の判斷めいて可笑く思召すかも知らないですが、これは周易でも何でもございませんん、眞個多年俳句を研究致しました經驗上から得た實觀を申上ぐるのでございます、何か若樣には容易ならない御不平がお在なさいまするやうに、憚りながら察し上げまするが如何でございます、大地を打つ槌は外れましても、此の想像は恐く的中であらうと存じます。」

と云つて、雅教の容子如何にと密と顏を見上げた。

すると世事に馴れない雅教は太く感服した樣子で、

「私は何の氣も注かずに詠むだのだが、宗匠の目に留まるやうな、不平な句があつたかね。」

「それや貴方恐ろしいものでございます、思内にあれば色外に表はるゝで、貴方は何の氣もなく御詠みになつたのでございませうけれども、滿々たる御不平がチャンと句の上に表はれて居ります、論より證據既に今日の御句の中にも有るやうに存ぜられます。」

云ひつゝ、詠草を取上げて、

「御覽じませ、この(しよぼ濡れし袖の雫や皐月晴)の御句などは、一面から見まると、五月雨のために飽々して居たのが、晴たために心まで晴々としたと云ふやうな意味に見ねまするが、又一面から見まると堪ね難き不平のために、初中終涙に袖を濡して居つたのだが、其不平が晴たやうな意味にも見ねまする。」

「なる程然う云はれて見れば、如何にも非常に愁むべき境遇に沈むで居るものゝ詠むだやうな句も見ねる。」

と、今更の如く其句を幾度か繰返して讀むで居るのであつた。

京城新聞

東拓役員の希望

韓人の躍起運動

拓殖會社創立時期の迫ると共に韓國側に於ける副總裁及理事創立委員の希望者續出し之が就任運動の競爭激甚を極めつゝあり、其競爭も韓國式に依りて表面に現はれざるも裏面に於ける暗鬪は意外に甚だしきものありて、創立委員の如きは未だ發表せられざるも、既に決定せられたりとの事なれば創立委員の競爭は茲に一段落を告げたるべきも、副總裁理事の撰定せられざる中は渠等の暗鬪は休止せざるべし、何故に渠等が斯く狂奔する迄に役員たるを希望するか、惟ふに社會の勢力に依りて自己の權勢を張らんが爲なるは無論なり、最初韓人等が會社に對する態度の冷淡なるが如く、遂に其創立に反對する態度を示したる如きは之を以て外は統監の意向を測り、内は國民の人氣を收めて幾分自己の權勢に資せんが爲なりしなり、當時創立首唱者たる桂侯と伊藤公との關係が圓滑ならざるの形勢なりしより、渠等は益々反對の態度を取りて伊藤公に對せんとしたり、斯くして天晴れ愛國者たるの廣告をなさんとせり、然るに伊藤公は此等反對の聲を國民の輿論なるかの如く聽取せしにや、其創立に就て痛く心胸を勞せられたるもの〻如し、斯る事情の爲に創立準備は無意味に遲延したるの觀なきに非ざりき、然るに日本政界の狀態は一變し、伊藤系と世に目する、西園寺內閣の辭職となり、會社創立の首唱者たる桂侯大命を拜して內閣を組織するに至り、從て創立の順序も圓滿に運ばんとするや、韓國に於ける愛國者の態度も茲に一變せざるを得ざるに至れり、即ち反對者も漸次に其本体を露出して賛成者たらんとするに至れり、爾來着々歩を進め役員撰定となるや、茲に始て熱心なる創立希望者となりて激烈なる就任運動をなすに至れり、非難論者は熱心なる謳歌者となれり、韓人の反對論は往々斯る結果に終ることあり、斯る狀態なれば副總裁及理事撰定の如き最も愼重にせざれば弊害の恐るべきものあらん、余輩の言ふ迄もなく當局者に於ても注意せらる〻ならんが、此等の役員は所謂政客に非ざる資產ある着實の者を撰むべし、實業方面の人物を撰擇するを可とす、政治上に關係するが如きものを撰で會社の一部を政爭渦中に投せしむるの愚をなすべからず

會社の創立に就て伊藤公は韓國民反對の聲に屢々疑懼躊躇したりと聞く、當時余輩は反對論者とするに足らずと論じて聊か警告する所ありき、果せる哉當時の反對論者は謳歌者となれり、渠等が熱心なる役員希望者たるは取りも直さず其創立を歡迎する所以なり、韓國人の反對多くは斯の如きのみ余輩が常に斷行を說く豈故なしとせんや

●對星樓茶話

△韓人曰く「卵買はんか」曰く「餅サリョ」と彼は賣ることを呼ばずして買ふものを呼ぶなり、彼は保護せられ乍ら「保護せんか」と呼び「保護さる〻」と呼ばざる人民也。

△拓殖の委員に撰出せられたる韓人曰く、シルクハットと大禮服を買はざる可らずと、韓人は斯くの如くにして文明を買へるものなり

△一進會は悉く斷髮したれども、洋服を着し洋靴を履むことを改めて韓習に復古せり是れ一進會の好政略なり、亦た排日思想の轉化也。

△二十七日の即位紀念會は空前なる出來事なりき、韓國に於て官民一致の會合は實に此會を以て始とす、而かも各自の嚢中より支辨したる如き、興士團長兪吉濬氏が其民衆の代表者として開催したるが如き、韓人の國家思想の一大發展とも可謂也。

△大坂朝日電報文に曰く非伊藤系の屬僚公の歸朝急なるを以て意氣揚らず云々、官吏の情況寫し得て妙なり、天下に公黨無し、政權と私黨と相消長するのみ。

△丸山總監の轉任は各顧問の殿軍として尤も好き殿軍なり。

△韓人の腹中に二個の資物あり、曰く修容術、曰く外交術。

東京電報

▲丸山總監轉任

統監府參與官韓國警視總監丸山重俊氏は本日島根縣知事に任命せられたり、

前項電報の如く丸山警視總監は愈々願により本官を免ぜられ其後任として島根縣知事若林賚三氏任命せらるゝことに決し一兩日中に其發表を見るべし

▲統監消息

伊藤統監は只今大森に着せらる

▲韓太子歸京

韓國皇太子には午後無事御歸京あらせらる

▲八朔の天候

本日全國の天候は概して良好にして昨日來降雨ありたるは北海道及び九州の一部とし又濕度も平年以上也(以上廿七日發)

地方電報

▲海州の暴風雨

一昨夜來當所附近に暴風雨起り昨午前十時止む穀物其他家屋人畜には被害なし(廿八日海州發)

▲全州の水害

連日の降雨により當地增水一丈餘に及び河水氾濫し交通杜絕す田畑の浸水甚だしく目下各地方の被害取調中なり(廿七日發)

雜報

●韓太子の歸京　箱根に滯在中なりし韓國皇太子伊藤統監一行は一昨日午後歸京せられたりと

●紀念品奉呈　一昨廿七日即位紀念慶祝の爲め漢城府民會長兪吉濬より左記の物品を奉呈せり

一銀製香爐	一雙	漢城府民會
一銀製茶碗	一雙	仁川府民會
一銀製酒盞子	一個	義州民會
一銀製酒盃	一雙	東萊民會

●東洋殖植と閣議

二十五日の閣議に於て東洋拓殖創立委員長以下委員百十名は愈確定し直に韓廷并に統監府に向け發電知照する所あり二十六日上奏御裁可を仰ぎ二十七日韓兩國同時に發表するに內定せり今創立委員の地方別を聞くに東京は一流の實業家貴衆兩院議員大藏陸軍兩省官吏を合せ約四十名之に次いで多數を占むるは大阪市にて全部實業家のみにて十名橫濱神戶名古屋京都各五名內外以上合計七十名にして外に都市以外の有力[illegible]三名の外在韓邦人中京城釜山元山群山仁川方面にも總纏頭的に創立委員を任命せる爲總員七十名の多きに達せり之に韓人側三十餘名を併せ百十名の顏振と成れり創立委員總會は九月十五日頃の豫定にして韓人創立委員の總會は來月六日頃本邦渡來の豫定なり韓國一流の實業家が斯く打揃ひて來朝するは珍らしき事なるが東洋協會は此好機に乘じ東洋協會學校出身者を通譯として日本觀光の目的の外我が商工業並に陸海軍の施設に就て十分視察上に便利を提供せんとし日本銀行砲兵工廠印刷局橫須賀軍港並に碇泊軍艦を始め東京屈指の大工場をも參觀せしむる準備に着手したり大阪市の東洋拓殖創立委員の顏振は藤田傳三郎、鈴木馬左也(住友家代表)原田二郎(鴻池家代表)中橋德五郎、岩下淸周、土居通夫氏外四名なり

●東洋拓殖副總裁理事希望者競爭

東洋拓殖株式會社設立の事發表せらるゝや韓人側に於ては上下擧つて反對の意を示す有樣なりしが近頃に到り反對の聲は全く消えて寧ろ歡迎の聲を著しく聞くに至れり而して今日に就ては相當の資產名望を有する者は何れも拓殖創立委員たらんことを希望し亦副總裁及び理事の候補者を以て任ずる者現に數十名に達し何れも自家が其撰に當らんとして目下彼等は盛んに競爭運動を試み居る由なり

●拓殖創立委員會

東洋拓殖株式會社創立委員會は來月十日東京に於て開會さるゝ豫定なりしが法令の發布委員の人撰等豫定に後れたるため延期して十五日に開會せらるゝ事となり韓國側委員は日本側委員と共に本月中に任命を了し來月四日頃出發渡日する筈なり

●拓殖副總裁の候補者

東洋拓殖株式會社韓人副總裁候補者に就ては曩に報導する所ありしが更に聞く所によれば前度支部大臣閔泳綺宮內大臣李允用李根培、趙羲淵等の諸氏何れも其の希望を有し中には陰かに運動に怠りなき模樣なるも李根培、趙羲淵の兩氏の呼聲最も高しと

●拓殖創立委員候補決定

東洋拓殖株式會社韓人創立委員三十三名中各道觀察使より二名宛推選せしむるもの〻中既に候補者として決定し昨日迄に來京したるもの左の如し

忠北	陰在億	李東信
忠南	尹佑炳	金致駿
京畿	李漢興	吳性萬
黃海	吳亨根	金永澤
平北	李台實	李宅源
江原	李東根	嚴正煥
全南	朴源奎	金衡玉

尙右の外六道より推選すべき候補者は今明日中に來京決定する筈にして京城より人撰すべき七名に關しては希望者二十餘名ありて激烈なる競爭ありて未だ決定に至らず何れ本日中には人撰を了し別項記載の如く來月四日頃上京する筈なり

▲豫告▼

韓國經營上偉大なる貢獻を爲すべき使命を有する東洋拓殖會社は近々成立せんと致し居り候、在韓十有五萬の吾人同胞は申す迄もなく千有餘萬の韓國民も等しく同會社の成立を歡迎致すこと〻存候、依つて本社は此の際を機とし、日韓諸名士及び實業家が同會社の事業に對して懷抱せる高見を叩き順を追ひて日々の紙上に掲載し以て同會社關係者及び公衆の參考に資せんとするの考へに御座候、冀くは掲載の日を俟ち幸に精讀之あらん事を

右謹告仕候

京城新聞社

●甲種登錄と京釜

去る六月卅日甲種登錄の形式に依りて交付されたる舊京釜鐵道代償公債(二千十二萬三千圓)の中公債證券を得んと欲する者は日本銀行に對し登錄削除の請求を爲さゞるべからず然るに其手續面倒に失し取扱遲滯を來たすを以て株主中非難の聲高く政府に於ても茲に顧みる所ありて登錄方式を變更せんとの內議あるやに傳ふるものあるも當局者の意向は依然甲種登錄を續行すべく京釜代償公債の如きも其實際登錄削除を請求し來る者は全額の三四割位に過ぎず從つて其變更手續も二ケ月を出でずして完了せしむべき見込なる由

●慶會樓の祝宴

漢城府民會の企てなる隆熙帝即位紀念式第一回の祝賀宴會は一昨日景福宮內なる慶會樓に於て開催せられたり當日は天候險惡なりしも午後三時頃より幸に雨收りたれば車馬を驅りて來會せし賓客其數中々に多く凡そ一千と註せられたり來賓は暫時樓下に於て休憩の後設けの八食堂に分入し奏樂と共に杯を擧げて『マンセイ』を三唱し立食を採り了つて庭園に於ける繩渡、舞童、雜歌團其他の餘興を見聞し或者は池の蓮花を賞し或者は模擬店に入りて官妓を賞し六時三十分に到つて歡樂の間に無事解散したり當日の來賓は日本側よりは石塚參與官を始めとし各高等官三浦理事官、多數の將校及紳商新聞記者等にして韓人側は李、宋、任其他の大臣次官及び知名の官員紳士紳商等なり尙當日は何時にもなく洋人及婦人の出席者極めて尠なかりしとの事なり

●警視總監の任命

丸山警視總監は愈々　昨廿六日東京に於て島根縣知事に任せられたる由にて後任者としては同縣知事若林賚三氏任命せらる〻事となり曾禰副統監推選し內部大臣此れを上奏するの形式にて今明日中に任命さるべし

●松井警務局長召還

松井警務局長は往復約一ケ月の豫定にて西部地方を巡視中なるが警視總監交迭し其の後任の來着は多少時日を要すべきを以て前任者丸山氏より一ト先警務局長へ事務を引繼がしむる事となり還かに歸京を命ぜられ本日平壤より歸任する筈なり

●博覽會準備協議會

既報の如く去廿六日午後一時より宋內相趙農相黑岩鑛務局長中村農務局長鶴岡山林局長山岡書記官小川事務官鈴木度支部司稅局長等農商工部に會合し勸業博覽會開設に關する準備協議をなし開設期は隆熙四年度とする事會場は西大門內慶熙宮境內に決定する事經費は約五十萬圓とする事美術、工藝、農業、動物、水族の五舘を設け賣店餘興演藝場大花壇大噴水の設備をなし夜間は盛んなるイルミネーションを點ずる事等を協議し午後五時散會したるが當分は右の諸氏準備委員の任に當りて諸種の調査及び設計をなしたる上にて更に日韓官民中より約二十名の委員を任命し開設準備に着手する筈也と

●釜山牛疫檢疫所設置

農商工部原島技師が釜山に於て當業者に語りたる談と云ふを聞くに檢疫所を釜山に設置するからは左の二條件を承諾するや否やにつき當業者と諮詢せし處當業者にては之を快諾したるにより龜山理事官とも商議し斯くまで進行し來りたる事なれば過日統監府へ申請したる出願に對しては歸京の上一應の督促をなし以て一刻も早く設置すべく盡力する筈なりと云々

(一)設置すべき檢疫所敷地負擔の件

(二)疫牛收容畜舍建築負擔の件

●財產整理局の分課

臨時財產整理局の分課規程に關しては曩に報道する所ありしが今回總務、債務調査、測量の三課を置き總務課は庶務に關する事務を掌り債務調查課は帝室債務を處理し測量課は元測量課の事務を分掌する事に決定す

●建築所の分課規程

度支部は建築所分課規程を制定し同所を工事部經理課に分ち工事部に建築課土木課を置く事とせり

●警備電話開通　咸興洪原間に架設中なりし警備電話は二十五日より通話を開始することゝなれり

●增派憲兵上陸　既報の如く昨日仁川入港の樺太丸にて增派憲兵百八十餘名上陸せしが右は直ちに入京の豫定なりといふ

●分遣隊撤去　[illegible]及所在に置かれたる憲兵分遣所は本月二十三日より撤去されたりと云ふ

●賊徒討伐情況

△平北龍林面分遣隊の討伐隊は八月十五日沙汰洞(平南鎭南方約二里半)に於て約十五の賊を潰亂せしめ其二を殪し火繩銃三雜品若干を鹵獲す

△咸南黃水院分遣哨下士以下十は八月十九日三タイ洞(黃水西方約五里)に於て約四十の賊と交戰し其二を殪し銃器二を鹵獲す此賊魁は車道善なる事殆ど確實なりと

△江原道金城憲兵分遣所の上等兵二名は八月六日中秋嶺(金城西方約二里)にて約三十の賊を擊退し其一を殪す

△全南羅州憲兵分遣所下士以下七名は巡查五名と協同し八月二十日風鵝洞(羅州北方約二里)附近にて約四十の賊を擊退し其一を殪し銃器一を鹵獲す

●宮楯署長の訓示　宮楯仁川警察署長は過日水原に於ける警察署長會議の結果來月初旬管內各駐在所の巡查を仁川署に召集し警察事項に關する訓示をなすべしといふ

●千早艦の理事官民長招待　目下仁川近海の海賊剿討に從事中なる千早艦は一昨日午前仁川に入港したるが高木艦長は昨日信夫理事官夫妻及び富田民長を軍艦に招待し午餐を供したりといふ

●喞筒選定委員會　昨日午後二時より仁川民團喞筒置場に付き選定委員會を開けり

●仁川病院略竣工　目下改築中の仁川病院は工事略々竣工したるを以て富田民長橫山助役出張し工事檢査を爲したるといふ尙同病院は小規模なるも病室消毒機具等は本邦避病院のソレに模倣したるものなれば昨今の所韓國に於ては他に比類なかるべしと云ふ

●西本願寺の說敎　明三十日午後八時より長谷川町西本願寺出張所に於て鎌田開敎使の說敎ある由尙同日夜同龍山の出張所に於ても說敎ある筈なり

●南山本願寺說敎　本日は土曜日に付例の通り午後八時より說敎あり

●全南海南邑の日本人　全羅南道海南郡海南邑には目下財務署巡查駐在所郵便取扱所憲兵分遣所等ありて其外に農事經營者雜貨商菓子商賣藥商等の居住者あり現在の總員四十二名なりと

公人私人

▲笠川德修(工兵少佐)　一昨夜東京へ向け出發

▲內藤定靜(帝國鐵道九州線鳥栖保線事務所長)一昨夜入京不知火舘へ

▲桐島政吉(統監府技師)　浦尾旅館

●近事片々

▲今世紀は飛行器の時代也露國に於てもグリク大佐最も巧妙なる飛行器を發明せり

▲大佐の發明機は錫片を以て羽毛に代へ羽翼を回轉せしめて一時間二百哩の速力出

▲昔者人に翼を以て到底不可能の事とせり今や人に翼を造り自由に翺翔するに至る

▲佛國にても飛行器成功し獨逸も成功し英國亦建造中今又露國此發明現出せり盛也

▲日本でも海軍及陸軍にて專ら研究中なりと云へば早晩精巧なる發明機現出せん乎

▲物質の進步は今世に至りて愈々驚く可き發展をなせり飛行器の世界交通近に有む

▲夢物語の如き月世界の交通も或は今世紀に於て開始せられん乎あら面白の世中や

▲一時間二百哩の飛行器に依れば漢城東京間は五時間にて達すべし隨分敏速なる哉

▲朝に出發して充分用事を辨せて夕方に歸るは容易也斯くなれば滊車滊船は迂遠哉

▲斯る飛行器發明せらるれば伊藤統監の如きは每日大磯迄往復することを得るなり

▲每日京城大磯間を往復すれば任地を空にする譏もなく阿嬢を何處に伴くも隨意也

▲總てに飛行器を利用するに至れば人間の脚力は頓に減じ步行の出來ざるに至らん

▲駐米淸公使伍廷芳近時目切り擡出し華盛頓に於ける花形役者となれり鬼に角衆物

▲伍廷芳の一擧一動は各國公使の注目する所となり從て外交團の中心たる觀ありと

▲高平大使の如きは伍廷芳に對しては木鷄の前の星位に過ぎずと云ふ甚だ深慨千萬

▲伍廷芳は一寸李鴻章の面影あり圖々しく法螺を吹く處杯は多少衣鉢を傳へたる乎

▲米國との國交は愼重を要する時なり日本も廷芳君以上の人物を派出するが必要也

▲滊河金鑛を日本は淸國と共同に採掘せんことを申込み袁世凱の拒絕する處となる

▲間島に於ける淸兵亦々增加せりと其口實とする所暴徒蜂起の徵ある爲也とは異乎

▲桂首相と寺內陸相との衝突は其實八百長ならんと揣摩するものあり果して然る乎

▲理由寺內は桂首相の陸軍費繰延を承諾の上留任したる者今更に反對するの理なし

▲寺內陸相全く陸軍費繰延に反對ならば留任する筈なし然るに今に於て衝突は怪し

▲伊藤公來月初旬歸任すべしと昵近者に語れりと夫ろ〳〵歸任沙汰が始まり來る

明治四十一年七月十日第三種郵便物認可　明治四十一年八月廿九日　京城新報　(土曜日)　第四十八號　(三)

●漢江四度の洪水

去る二十四日來の降雨にて漢江の水嵩著しく增加し昨日の如きは上流の增水の爲め三十一尺に達したりと之れが爲め龍山元町一丁目、梅町、凱旋町、旭町等は前回の如く各家浸水し舟を泛べて交通し居り同方面は殆ど海の如き狀を呈し居れり又た被害の程度は前回と格別の差なきも浸水家屋は前回より增加せりと云ふ龍山市民は今回の增水にて一ケ月の間に四回の水害を蒙むるに至れるは實に同情に堪へざるなり

●漢江增水の別報

本月廿五日以來の强雨にて漢江暴漲し昨日午前六時の水量三十尺に達せり之を七月廿八日の出水に比するに二尺の增水なり龍山の浸水家屋は旭橋通り梅町、凱旋町、神明町の大部分にして神明町殊に甚だしく軒端を沒するに至り元町通り以東停車場間は濁水滔々として交通杜絶し小舟を用ひて來往せり浸水甚だしき家屋の住民は學校又は停車場に避難し人命に付危難なきも風波加はりし爲め浸水家屋の損害は前回より多き模樣なり麻浦西湖其他沿岸各部落は多少の浸水を蒙りたるを以て專ら警察に於て救護警戒中なり

●一昨夜の提灯行列

韓國臣民が待ちに待ちたる隆熙皇帝即位第一回紀念祝賀會は一昨日催されたり晝間の景況は前紙記載の如し夜間は官公私立各學校生徒及び漢城府民團の催しに成る提灯行列ありたり今景況を記さんに各學校生徒は各其教師の引率にて光化門前學部前の廣庭に集合し各其校の旗を押立て太極入りの球燈又はカンテラ等を振り師範學校を先頭として鐘路通りに出で昌德宮敦化門前に至り國歌を謳ひ萬歲を三唱し續いて府民團は鐘路の事務所に集合し樂隊を先頭に其洞々の旗を押立て統首之に付添ひ府民祝賀會長俞吉濬及び府尹張憲植等之を指揮し順次繰り出したり其數實に三萬と稱す先頭は敦化門前にあるも後尾は鐘路に蝟集し居れる狀況にて鐘路より之を望めば東大門通りの廣場は人と燈光とを以て塡充し其光景の壯觀なる實に名狀すべからず此光景を觀んとて集りしもの韓人は鐘路附近に人の垣を築き爲めに電車の往復も一時非常に困難せし程なりし斯る混雜中驟雨沛然として至りしかば雨を避けんと右往左往に奔走するなど混雜は彌が上に混雜を生じ提灯行列は遂に混雜中に無事終りを告げたり

●砂金工夫慘殺さる

平安南道成川郡風觀里に於て本年三月頃より砂金採取に從事せる日本工夫二名ありて韓人通譯と共に其日を送りつゝありしが去る十八日十數名の暴徒來り砂金採取業に加入せんことを强請したるにより通譯は此者等と應接し居れる折柄彼等は日本人の隙を窺ひピストルにて日本人を射撃したる上之を亂打して慘殺したる爲め被害者の住所姓名を知るに由なく又遺留品の如き一もなければ何處の者とも判然せざるも風說に依れば神奈川縣人坂本榮三郎(五十)同坂本萬之助(三十)の兩名ならんと云ふ尙死体は成川警察署に於て引取りたりとのことなり

●巡査と强盜の格鬪

事少しく舊聞に屬すれど去る二十三日の夜北部警察署詰巡査某が和服にて密行中北署外郊九龍洞に至りしに突然物陰より現はれ出たる黑裝せし二名の怪物あり[illegible]捕へ與れんと捕繩を手に持ち身構へしたるを件の曲物は同巡査に向ひ劍を揮はして切り込み來りたるにぞ巡査も此樣子を見てコリャ尋常一樣の賊ではなかるべしと察し之を取押へんとせしに賊もさる者容易に捕へられず數分間格鬪の後漸く取押へたるは江原道鐵原邑金聖學(三十)忠清道牙山屯浦金圭桓(二十)の兩名にて二名とも强盜の犯跡あるを以て目下取調べ中なりと因みに彼が所持せし劍は龍山旭町森古物店にて買求めたるものなりと

●日本一の寢坊の女房

千葉縣匝瑳郡東陽村字宮川鷄卵問屋椎名ニ郎は妻ハル(五十)との間に一子あり此のハルは評判の寢坊助にて其の熟睡中には什んな手荒き事をされても眼覺めぬ程なるが廿日の夜例の如く親子三人三疊の寢室に入り就寢したる處頓て午前一時とも覺しき頃一名の賊同人方の錠を切り破りて忍び込み店頭の錢箱を竊取して持出さんとせしかど固く錠がしてありて容易に開かぬ所より賊は更らに方法を變へ衣類でも盜まんと箪笥のある部室に行きしも此所には前記の如く妻子三名が休み居り且つハルは箪笥に添ふて高鼾に眠り居たれば賊は同人が邪魔で什麼する事も叶はず圖々しくもハルを寢所より裸體の儘隣室に持ち行きしがハルはそれとも知らず依然として熟睡したる爲め賊は得たりと箪笥の抽斗を開けて衣類金品約五十圓を竊取逃走したり

●夫婦の愛情

南大門外夜珠峴二十一統崔永用(二十)は此の年の若さに四人もの子供のある身ながら薩張親爺らしき所なく却つて毎日〳〵子供と一所に戲れ居る呑氣ものなるが幸ひ同人の父が町內切つての金滿家なる所から同人が毎日遊んで居やうと毎年子供を製造しやうと別に關つたことはないが唯近頃同人は何んと魔が差したか否な時代の趨勢につれて自然主義者と化せしかしきりに近所の蝎甫屋に通ひ初め內を外なる逆上せ方に兩親も意見を加へ妻女もアンデーとコボせしことも屢々なりしが本人更に聞き入れざるのみならず此の三四日は全るで家に歸り來らざる始末故父は非常に立腹しこんな忰に後目を讓らるゝものではない之れも前世の因緣だもう今日よりは子ではない出て行けと叱り飛ばしどうとう勘當をなせしは一昨日の午後八時頃なりしがサテ忰は此の暗闇に加へてショボ〳〵と雨の降る夜ソレに當地には知人もなければ何所へ行くといつて別に行く所もなくサリとてヨトコツソリと何程かの金を貰いて韓人宿屋に泊りはせしも翌日になると何うしても妻子が戀しく〳〵ツて堪らずノコ〳〵と家に歸り來りしに兩親は斷乎として寄せ附けず依つて又々元の宿屋に歸りたるがソコは流石は夫婦の[illegible]家を飛び出し夫の宿り居る所に至りて今迄の罪を謝し飽迄改心して父に謝罪まるやうに涙ながらに說き勸め居るとかいふ

●二人共韓人の妾

東署廣橋北川邊の韓人理髮店の二階に二人の年若き日本婦人住み居れるがどちらも之といつて定まつた配人の有るやうにも見えず又親戚とも知人とも思はるゝ者の出入もなく唯時々近所の韓人共が遊びに來りては笑つたり嘯いたり諸つたりする樣子の如何にも怪しければダン〳〵探りを入れて見ると案の通り大名は一名を川勝フミ(三三)他の一名を國松ナツ(三三)といへるがどちらも韓人のヨボ旦那を持ち居りて昨今はマツ何に不自由なく其の日〳〵を送り居れり却說ナツの方は忠清南道觀察使たる崔延德とかいふ歷々たる旦那を擒にし居れるが同人は最初男と日本に於て關係を結び其の結果因果の胤を宿せし程なりしが頓て男は女に無斷にて韓國に歸りたれば女は非常に當惑し其の跡を追ふて京城に來りたりしも頓と男の在り家が判らず果ては金盡きて路頭に迷はんとする矢先き病氣に罹りたれば爰に一方ならざる難義を見今は殆んど進退維谷の窮境に陷りたる所をある韓人醫師の爲めに救はれ又一方關係せし男の在り家をば尋ね當て今の所フミの家に同居することゝなりたるなり次にフミの旦那といふは金勝運(三四)といふものにて昨今は咸鏡北道邊の或る郡衙の通譯をなし居れるが此の兩人の關係は今に始まりたるものにあらず殆んど足掛八年にもなり從つて兩人の情交厚く今は殆んど夫婦同樣といふ程なり女は橫濱の生れにて至つておキャンの質なるが初め男が韓國の留學生を監督すべく日本に行きしときある料理屋に其の女が酌婦奉公をして居りしを見染めて出來合ひしものなりといふ兎も角女一人で朝鮮に來るからには何か仔細がなくてはならぬものなり

●老耄爺の女郎買

南大門通り四丁目のある運送屋の主人は年既に耳順とやらに達しもはや片足を棺箱の中に突ッ込み居る老耄爺なるが近頃は少しく仕事の閑なのに自暴棄を起し妻子の手前をも顧みず龍山桃山の桃山樓方の唱妓若吉に熱くなり雨が降らうが風が吹かうとシンな事には一向頓着なく毎晩セッセと通ひ詰めしが其の割に先方では鬧張り惚れて居ず唯金があるのを見込んで嘘八百の口世辭でさも惚れて居るやうに見せ掛け居るを爺さんさうは思はず老人株の色男はマツ見渡したところ俺一人位なるべしと無理に反り返つての得意顏妻も呆れて別に意見も加へず爲すがまゝに任せ居りたりしが二三日前よりは何うしたのか家に歸つて來ず又何の沙汰もなきより必定例の女の處に居つゞけして居るに相違なしと鑑定をつけ妻君自身桃山樓に押し掛け行きたる所案の條爺さんは女郎の部屋にて敵娼とフザケ散らして居たので妻君は怒聲一時に發し胸倉を掴んでヤッとの事我家に連れ戾りたりとの小僧の噺しを聞いたといふ投書のまゝを

●亭主を尻に風船女房

處は夫れと明かさねど兎に角有り難き名の附く町に○○館と筆太き看板の一構への下宿屋あり此家へ今より約そ一月計り前日本より渡來して宿り込みたる夫婦者あり之れが亭主と云ふは石部堅造と云つて四十路の坂に手の屆かんとする年にて其名の如く堅ぞうなるが其女房お輕は亭主とは打つて變つて脣の輕きこと其名の如くにて年こそ取つたれ殘りの色香失せやらず姿さへ婀娜しき女なとりかさる程に同宿者に色野好太郎といふ名からして恰好なる色男あり輕は好太郎と朝夕顏見合せては好太郎が優しき姿に心を動かし夫れとなく素振りを見すれば好太郎も左る者直ぐに之を悟りて袖を引けば待ち設けたる輕の喜び一通りならず夫より祕ならぬ禊を重ね初めの程こそ人目を忍びて繼しき夢を結びたれど度重なれば膽も太くなり此頃は人の手前をも憚らぬ振舞なるにも拘はらず人好の堅造はお輕が斯る不仕埒落を少しも知らず輕〳〵と崇め居るこそ氣の毒の次第なりとの投書をかくの如し

●韓人の捨て子

昨日午後九時北署大安洞四統一戶の空家に赤子の泣き聲聞ゆるにぞ巡廻の巡査は直ちに同家に立入り見たるに一人の赤子が板の上に仰向けにしたる儘捨てありしかば巡査は醫師をして之を檢せしめたるに生後二日を經過したる男の子なりしを以て直ちに捨子として京城孤兒院へ引渡したりと云ふ

●喧嘩を買ふ

南大門通り二丁目第一銀行前[illegible]潤と人夫宋乘運の二人が例の空意氣込みで喧嘩を打始め居る處をコレハ面白し己れの腕は近頃夜鳴きして居るから奴の顏面なりと見舞つてやらんと最もツキの飛上りなる福島縣生れ本町七丁目川口吉勝方三形勝造が宋の面部を毆打して創傷せしめたるより勝造は宋の訴へにより南部警察署へ引張られたり



●松木を盜む

南山公園地を一昨日午後七時過ぎ巡廻中の巡査は雨に濡れながら大なる松木を擔ぎ下り來るヨボを認めたるより之を取調べたるに山頂より周圍二尺七八寸餘の松材を伐り倒し斯くは竊み去らんとしたること明り直ちに引致さる

●日曜奏樂

明三十日午後七時より例の如く倭城臺公園に於て軍樂隊の奏樂あり其曲目は左の如し

行進曲	和城臺	佐藤樂手作
序樂	步哨の警報	クロドミール作
俗曲集	軍用輓	軍樂隊作
長唄	勸進帳	同
ワシントン		ポストスーザー作

●一昨夜の出齒り數

一昨夜新町に出齒りて昨朝裏の鳥と共に巢立したる阿呆鳥の數は松榮七、南山七、大桝八、曙春二十、京城十六、井門支店三、第一支店四、山遊六、第一本店七、滿月九、高島屋四、月下四合せて九十二羽之れが消費高は五百十一圓九十錢

(文)(庫)(平)(民)

諸君今日の官界に偉大なる人格を備へしものありと思ふが若しありと思へる人は大なる誤解にて予は國家の爲め甚だ之を嘆ず(同生)▲南山々巓に蜘蛛の巢の如く張り廻はせる鐵條網は須らく撤去すべきなり保安林に編入せられたる今日に於ては其必要なきものと信ずよろしく公衆の公園として開放すべきなり(非我利亡者)▲水道會社が鐵管を埋沒したる道路が今回の雨でまた毀はれた危險で堪まらぬから早く修繕して呉れ玉へ(通行人總代)▲僕は京城座の隣家に住むものなるが近隣の同意をも得ず劇場を建築したるのみならず夜遲く迄ドンチャンチャンやらるゝので安眠を妨害され爲に此頃は睡眠不足で非常に衰弱した民法上之を抗議することは出來まいか大方諸君敎示して下さい(隣の人)▲京城の觀劇者は芝居を見て無暗に拍手喝采するが我々共より見て[illegible]たることを表白して居る(俳優の一人)▲壽座に於ける鳴入連の娘義太夫は可愛くて罪がなくて將來有望なる者ばかりだ(立聞生)

●天氣豫報(自廿八日午後六時至廿九日午後六時)

西の風晴

二十八日午前六時各地氣象概況
昨朝韓國中部に上陸せし低氣壓は其後急速に日本海北部に駛走せしを以て全國概ね西の風吹き天候恢復せり



新講 富本半平の身上（四）

今でこそ證文を取る様な事になつて居りますが其實の幇間の弟子なんていふものは手前の様にズル〳〵ベッタリの食客ばかりで半平師匠の家などは大將が呑氣なだけに猶ど喰ひつぶしが多うムいました如何で幇間にでもならうといふ連中ですから碌なものは一人だつてある譯のもんぢやアありませんが夫れでも一通りの事を覺えて居ないと座敷が勤まら無いといふので偶には師匠に聞いて見る者があるがスルと師匠の言ひ分が何時でも版で押した様に極つて居てナーに何をする事も要らないジッとして居りやあ夫れで宜いといふのですチー判然らないぢやアありませんか……

其頃雛壽太夫の弟子で喜代壽太夫といふ幇間がムいましたが至つて無作法な男で折々失策をやらかしました中近江といふ料亭屋さんへ師匠の榮壽さんと一座で聘ばれて往つて居りましたが例の無作法から前にかつた煙草盆に斯う手を伸ばして煙管の雁首で引ッ掛け自分の膝元へ手繰り始めたのを榮壽さんが客樣と話をして居ながらチラリと横目ににらんだかと思ふがはやいか此れも手にして居た煙管でイヤといふ程其手繰り掛つてた喜代壽太夫の腕ッ節を叩きつけたのです驚いたのは喜代壽太夫で思はず煙管を手から落しクル〳〵と飛び上り顔をしかめてサロ〳〵するのを榮壽さんは見向もやらずへイ左樣で……そりやアオッでげしたらうなど〳〵た客樣と前からの話を續けて居るお客樣は喜代壽太夫が腕ッ節を叩かれたとは氣がつかず榮壽さんが吸ひ殻を捨てたのだと思つてノー榮壽遊びもあゝ往きやあ面白いのといふ鹽梅、以前の師匠は萬が此の意氣でツマリ自分で悟れ〳〵といふ樣にしむけたもんでした

手前もトウ〳〵三代の半平を師匠と賴んで幇間で押し出しましたが年の若いのが呼ばれ物となりました蔭でナカ〳〵お座敷がムいいました然し藝といつたらカラッキシ形無しで只もうウワーッといふので胡魔化して居たのですから隨分心細い幇間だつたに違ひありません其頃の棒組みは松三郎といつてた只今の正孝に孝治夫れから松助なんといふ連中でしたが手前同樣此れが何れも未熟者と來て居るからお氣がつかれる次第で或れ茶屋さんなぞでは『幇間持[illegible]』といふ札を張り出した位でした

孝治といふ男は素手品師の所に居た事があるといふので此れからが千番に一番のかねあひ……オットどつこいなど〳〵皿を廻し松助は下手役者だけあつて無暗と此幽靈で宙返りを打ちたがる又手前は師匠の流を汲んで傘の足藝をやるのです







●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金三十錢 ▲三ヶ月前金八十五錢 ▲六ヶ月前金一圓六十錢 ▲郵稅一ヶ月拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西署西小門